

九州歯科大学附属病院長 富永和宏

(急告) 緊急性のない全身麻酔下手術の中止について (当面の間)

桜が満開になりましたが、新型コロナウイルスの蔓延により、それを愛でることもはばかれる状況です。先生方には日ごろから大変お世話になっております。

さて、北九州地区でも病院内での新型コロナウイルスの院内感染が報告され、また、無症状のウイルス保有者も発見されるなど、COVID-19 対策は医療現場に大きな困惑をもたらしています。

当院としましては患者様の安全を第1に考える視点から、急遽ではありますが、入院下での緊急性のない全身麻酔下手術を当面中止し、病棟で受け入れる疾患を顎顔面外傷、重篤な歯性感染症と口腔悪性腫瘍に限定することに致しました。

医学的に緊急性の少ない患者様を今の不確実な状態で受け入れるのは、患者様を危険にさらす可能性があり、また、万が一、そのような患者様から COVID-19 が発症すると当院の診療が継続できなくなります。もし、そのようなことが生じると、本来、当院が担当すべき上記のような緊急性のある患者様も受け入れできなくなります。それを避けるため、病棟に入院する患者様の制限を行い、当院の歯科の二次医療機関としての機能を守ることが目的です。

従いまして、当面は緊急性の少ない患者様の外来へのご紹介も控えていただきたく、併せてお願い申し上げます。

医療崩壊の緊急事態にならないよう、歯科の二次医療機関としての当院の機能を堅持するため努力して参りますので、事情をご賢察のうえ、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、この決定は市中の COVID-19 発生状況などを鑑みながら解除していきたいと考えておりますが、現状では先が見通せない状況であることもご理解ください。

以上